海外出張報告

第２回 OIE リファレンス研究所およびコラボレーティングセンター会議（6 月 21 ～ 23 日）、第 4 回獣医医薬品規制調和国際会議（6 月 24 ～ 25 日）

出張期間：平成 22 年 6 月 20 日～ 27 日
出張場所：フランス（パリ）

YOKOYAMA Takashi
プリオン病研究センター　プリオン病研究チーム長　横山　隆
MURAKAMI Kenji
ウイルス病研究チーム　上席研究員　村上　賢二

[用務の内容]

平成22年６月21～23日の日程でフランス国パリ市にある国際獣疫事務局（OIE）本部に出張し、第２回OIEリファレンスラボラトリー（RL）・コラボレーティングセンター（CC）会議に参加しました。本会議には、世界中から200名以上のRLおよびCC関係者が参加し、3日間にわたり以下のセッションが行われました。1) OIEおよび国際社会のサポートにおけるRL、CCの重要性、2) RL、CCのリファレンス業務の義務と条件、3) バイオセーフティー・バイオセキュリティーと脅威の減少、4) 診断テスト、ワクチンおよび獣医薬、5) 研究について、6) ラボラトリーネットワーク、7) 国際協調および結束。最終日には発表された内容について活発な討論と会議における提言がなされ、盛会裡のうち会議を終了しました。

OIEは、世界の動物衛生の向上を目的とした国際機関で、1) 世界の動物疾病に関する情報の提供、2) 獣医学的科学情報の収集、分析および普及、3) 動物疾病の制圧および根絶のための技術的支援および助言、4) 動物および動物由来製品の国際貿易に関する衛生基準の策定、5) 各国の獣医組織の法制度および人的資源の向上、6) 動物由来の食品の安全性確保と、アニマルウェルフェアの向上を目的としています。国際貿易に関するルールに係る基準の策定は、各国の利害や政治的な対立を極力排除するために、科学的根拠に立脚した判断をするための知見を提供することが、専門家会議やRL、CCの役割です。2010年現在、40カ国130以上の疾病または分野について190のRLおよび37のCCが認定されています。グローバル化へ対応するため、RLおよびCCの数は年々増加する一方で、その活動実績が毎年評価の対象となっています。OIEはRLが協力して発展途上国の研究所の水準を引き上げ、新たなRLへの認定を目指す「ツィニングプロジェクト」やCC同士の「協力」を通じた診断技術の標準化を目指しており、2回目となる今回の会議は、RL、CC間の情報および意見交換ならびに、今後の協力関係の模索を目的としています。

動衛研は馬伝染性貧血、豚コレラ、牛海綿状脳症のRLに認定されていましたが、本年5月に動衛研と農林水産省動物医薬品検査所が「アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価（Diagnosis and Control of Animal Diseases and Related Veterinary Products Assessment in Asia）」を協力分野とするCCとして認定されたことで、さらなる国際社会への貢献が期待されています。

[所感]

OIEは176の国および地域から構成されており、一口に「国際基準」といっても、それを理解するのは容易ではありません。貧困で食料難に直面した国と、畜産に付加価値をつけて独自性を求めようとす

る国、肉食文化と米食文化の差に起因する食肉に対する考え方の違い、それぞれの地域で最重要に取り組まなければならない家畜疾病の問題などの背景に加えて、各国の診断技術のレベルや診断施設の整備状況も様々です。

かつては、東南アジア各国では、動衛研とも連携、協力関係を有する研究所が多数ありましたが、その関係は次第に疎となりつつあるようです。各国の研究所に設置されている解析機器、施設にはわが国の支援により整備されたものが多数ありますが、その後の継続的な技術協力の完了により、他国の研究所がそれらの機器を活用して遺伝資源の探索や技術援助を行っている例もみられます。

OIEはRLに特別な予算を配分しておらず、そのボランティアによる活動には限界がありました。動衛研のCCとしての認定は、今後の国際協力の在り方について見直すとともに、他の国と実施中の共同研究・技術協力を発展させる格好の契機でもあります。動衛研ならびに関係する相手国ともに有益となる協力関係を維持していくには、研究所をあげての戦略、支援が必要と考えます。

TOPICS

第９回産学官連携推進会議（科学・技術フェスタ in 京都）に参加・出展

６月５日、国立京都国際会館で第９回産学官連携推進会議－科学・技術フェスタ in 京都－（主催：内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省等）が開催されました。会議には大学や独法研究機関を中心に5,000人を超える参加がありました。本年から１日限りの開催となりましたが、鳩山由紀夫前内閣総理大臣のメッセージ、川端達夫内閣府特命担当大臣の基調講演や特別講演、企業・大学・研究機関・自治体等の研究開発成果の出展がありました。当所は農研機構の４つの研究所と共に出展し、産学官連携推進委員を中心に４名が民間企業等との共同研究成果４点について、ポスター・製品展示を行うと共に資料配付を行いました。当所のブースには奥原農林水産技術会議事務局長をはじめ多くの訪問がありました。

研究成果についての質問の他、丁度、宮崎県での口蹄疫の発生があったことから動物衛生についての質問が多く、当所に対する期待の大きさをあらためて実感した１日でした。

（八木研究管理監）